

近畿圏フォトマッチインカレ 2018 (PMIC2018) 実施要項

1 大会名称

本大会を「近畿圏フォトマッチインターカレッジ 2018 大会 (略称 フォトマッチインカレ 2018 PMIC2018)」と称する。

2 主催

フォトマッチインカレ実行委員会

(株) 日本写真企画 (月刊『フォトコン』誌)

(株) 風景写真出版 (隔月刊『風景写真』誌)

産業能率大学 経営学部教授 水島章広(実行委員長)

3 会期

撮影

2018 年 12 月 12 日 (水) ~2018 年 12 月 25 日 (火)

撮影場所は第 6 項で指定する。

大学対抗選会場

2018 年 12 月 26 日 (水) 11 時~18 時

大阪府立江之子島文化芸術創造センター (enoco)

4 参加資格

- 4.1 四年制または六年制大学で、大学公認の課外活動団体 (公認であればクラブ、同好会、サークルいずれも可) またはゼミであること。1 校からの参加は 1 チームに限る。ただし複数の団体やゼミで調整して代表 1 チームを可能とする。
- 4.2 参加するプレイヤーは参加名義の大学に学籍がある者に限る。また雑誌に氏名が掲載されることがあるので承諾できること。
- 4.3 主催者との緊急連絡先が確保できること。
- 4.4 11 月 25 日におこなうルールミーティングに少なくとも 1 名を代表者として出席が可能であること。
- 4.5 撮影期間 (12 月 12 日~12 月 25 日) のあいだに第 6 項で指定する撮影指定場所のいずれかで撮影可能であること。
- 4.6 大学対抗選当日 (12 月 26 日) に参加申し込みをしたプレイヤー全員が会場に来ること。

5 大会の概要

5.1 【チーム組み】

各大学で5人1組のチームを組み、キャプテンを1名選出する。

5.2 【参加申し込み】

申し込み締め切り日(11月9日)までに主催者にチーム(5名)の参加申し込みをおこなうこと。なおプレイヤーの交代は大学対抗選前日まで認められる。

5.3 【トーナメント抽選】

11月25日におこなうルールミーティングでトーナメント抽選をおこなう。

5.4 【撮影】

撮影会の会期中に指定された地域で風景写真を撮影し、ひとり5点の作品を選定してチームで合計25点の作品をデジタルデータ(JPEG形式)で主催者がネット上に用意したフォルダに作品提出期限の2018年12月25日19時まで提出する。

5.5 【大学対抗選の内容】

2チーム(大学)が対選する1単位を「マッチ」と呼び、マッチのなかでおこなわれるプレイヤー個々の対選を「ゲーム」と呼ぶ。ゲームでは、キャプテンを中心に相談して5人のプレイヤーのなかから1作品を選ぶ。次にこの作品は司会の「オープン」の掛け声とともに相手の大学が選んだ作品と同時にスクリーンに映し出される。これを3人のジャッジが紅白の表示装置で判定結果を示し、2人以上の判定を得たプレイヤーが勝ちとなる。このとき3人のジャッジは双方の作品に対してコメントをする。

このマッチで先に3勝したチーム(大学)が勝ち残り、トーナメントをすすめる。第1回選と第2回選は、いちどのマッチごと5ゲームをおこなうが、決勝トーナメントとなる第3回選以降、決勝選まではどちらかのチームが先に3勝した時点でマッチを終了する。

なお一度使用した作品は次のゲームには使えない。またいちどのマッチでは1人1作品しか使えない。したがってどのプレイヤーの、どの作品から使うのかがキャプテンの采配となる。

第1回選と第2回選のトーナメントはスイスドロー方式でおこなう。第1回選はルールミーティングで抽選によって対戦相手を決定する。第1回選の結果により上位チームどうしから組み合わせ第2回選の対戦をおこなう。2回戦が終了した時点で上位4チームによる決勝トーナメントを組み、通常のトーナメント形式で1位から4位の順位づけをおこなう。なお決勝選のまえに3位決定選をおこなう。スイスドロー方式での対選結果の順位づけは、以下の基準でおこなう。

勝ち数→得失点差→獲得旗数→ジャッジの合議による決定

5.6 【大学対抗選の出場プレーヤー】

12月26日の大学対抗選は5名が出場すること。やむを得ず欠場する場合は最大2名までとする。欠場が3名以上になったチームは失格とする。欠場したチームは残りのプレーヤーで競技を進行する。このとき残存のプレーヤーは以下5.7.1～5.7.3に従い自己の作品から選択し欠場プレーヤーの代替作品として使用することができる。なお残存プレーヤーが提出できる作品数は5点であり、欠場したプレーヤーの作品提出は認められない。

5.6.1 欠場プレーヤーが1名の場合は第5ゲームを、欠場プレーヤーが2名の場合は第4ゲームと第5ゲームに代替作品を使用することができる。

5.6.2 1人の残存プレーヤーが使用できる代替作品は1マッチあたり1点を限度とし、全マッチを通じ2点を限度とする。

5.6.3 代替作品が無い場合、ゲームを不戦敗とする。

6 撮影指定地域

以下の各公園・地域で撮影をおこなう。一カ所で撮影しても、複数の場所で撮影してもよい。撮影はチーム(大学)でまとまった行動をおこなう必要はない。プレーヤーが別々の日時・場所で撮影をおこなってもよい。

以下の指定地域以外に11月25日におこなわれるルールミーティングで参加各大学からの意見を参考に撮影地域を追加する。

なお大学対抗選では作品が映し出されるたび、撮影地点(公園・地域名)を告げなければならないことがある。

【入場が有料な公園等】

水景園(京都府精華町)、京都府立笠置山自然公園(京都府笠置町)、大阪府立花の文化園(大阪府河内長野市)、万博記念公園(大阪府吹田市)、神戸市立森林植物園(神戸市北区)、花博記念公園 鶴見緑地(大阪市鶴見区)

【入場が無料な公園等】

けいはんな自然公園(京都府精華町)、天ヶ瀬森林公園(京都府宇治市)、竹の径(京都府向日市)、大泉緑地(大阪府堺市)、大阪府民の森 緑の文化園(大阪府四條畷市)、服部緑地(大阪府豊中市)、大坂城公園(大阪府中央区)、布引の滝(神戸市中央区)、夙川公園(兵庫県西宮市)、奈良公園(奈良市)、京都御所(京都市上京区)

7 作品について

対象は風景とする。風景とは果てしなく広がる世界の中で、撮影者がいる場所から見えている空間、それすべてが風景である。

ただし、競技のルールとして以下の3つ制限を課す。

7.1 演技、演出の禁止

原則として、そこに自然の状態、あるいは恒久的に在るもの、作為ではなく現れたものが対象となる。すなわち作為的ではない、出合った瞬間、見つけた場面を撮ること。例をいくつか挙げる。

好ましくない例

持っていた小物を入れて撮る（撮影する意志を持つ者が画面を作るために作為的に使用したもので、演出にあたる）

対象となる被写体から外れたところから落葉を拾って置いた（自然にあり得る状態を逸脱しており演出にあたる）

落葉を集めて撒いた（きわめて作為的であり、演出以前の迷惑行為である）

許容される例

落葉の方向を少し変えた（演出的ではあるが、自然にあり得る状態を逸脱していなければ許容範囲）

またストロボの使用、夜間の補助的な人工光の照射は、写らないもの、写りにくいものを写そうという努力と工夫であり、これは写真の歴史の中で営々と続けられてきたことであるため許容される。

7.2 人と世界の関わりを撮る

人物を画面に入れる、入れないは自由である。ただし、人物そのものを主題とするのではなく、風景の中の人物、風景と人物の関わりが描かれていること。

7.3 他者の美意識を借りない

建築やショーウインドウ、広告物など、他のクリエイターによる創造物の美に頼らない。それらが入る場合でも、画面から作者独自の創意が感じられること。

7.4 画像加工について

色調、画質調整、白黒変換、輝度やコントラスト調整をはじめとするレタッチ、トリミング、フィルター（光学フィルターおよび画面効果フィルター）等の使用については制限しない。PCでのこれら加工も制限しない。画像合成も制限しない。

* 撮影現場でのベーシックな発見力、表現力が競技の主点である。現実にある世

界から美や感動を抽出する写真家としてのベーシックな視点、表現力を問うもので、フォトタッチは禁止ではないが、写真家の想像力によって映像を創り上げる能力を問うものではない。

*フォトタッチにより本来そこにはないものを加えない。恒久的にあるものを消さない。

→空缶が写っていたので消した ○ (恒久的にあるものではない)

→センサーについていたゴミをタッチで消した ○

(風景自体に恒久的にあるものではないから)

→ガードレールを消した × (恒久的に存在する)

→農作業で落ちた藁屑を消した × (農作業はそこで行われるべき恒久的な営み)

*フォトタッチにより色彩を調整する ○

→人が現実にある風景として違和感なく美しい、あるいは感情を動かされるかがジャッジの要点である。現実の色彩に近づけることを求めているわけではない。

8 大学対抗選について

大学対抗選の運営は主催者がおこなうが参加大学も運営補助をお願いする。

ジャッジは以下3名とする。

藤森邦晃 (月刊『フォトコン』誌 編集長)

石川薫 (隔月刊『風景写真』誌 編集長)

中西敏貴 (風景写真家)

司会は永原耕治 (隔月刊『風景写真』誌 副編集長) おこなう。

大学対抗選進行は坂本太士 (月刊『フォトコン』誌 副編集長) おこなう。作品の投影システム運用と記録は各大学等から有志の支援を受けておこなう。

9 賞

トーナメントで優勝、準優勝、三位になった大学と各プレイヤーに賞状および副賞を授与する。他にすぐれた作品や活動が著しかったプレイヤーに賞を授与する。

10 作品の使用について

提出された作品は両誌へ作者名とともに掲載のほか、同種の競技広報のため Web サイトなどで使用することがある。また学術研究に使用することがある。なお提出された作

品は既発表作品とみなし、両誌のコンテストへの応募はできないが、それ以外の使用を制限するものではない。

11 安全の確保

会期中の移動や撮影活動についての安全確保は各自の責任でおこなうこととし、主催者は万一発生した事故や紛争等に対する責を負わない。

12 費用

各大学からの参加費用は徴収しない。ただし撮影場所や大学対抗選への移動費用、公園などの入場料、撮影にかかる材料の費用は各自で負担する。

大会で必要な経費については協賛企業からの協賛金を見込む。

13 ルールミーティングへの出席

本選出場の大学の代表者は11月25日（土）14時から大阪府立江之子島文化芸術創造センター（enoco）でおこなうルールミーティングに出席しなければならない。

14 開催までのスケジュール

8月20日 募集開始（風景写真誌、フォトコン誌で告知）

11月10日 募集締め切り

11月25日 ルールミーティング

（13時より 大阪府立江之子島文化芸術創造センター）

ルール説明、風景写真講座、トーナメント組み合わせ抽選

12月11日 プレーヤー名簿提出（提出された氏名は雑誌等で使用される）

12月12日 撮影開始

12月25日 撮影終了、作品提出（19時締め切り）

12月26日 大学対抗選開催